

官民連携グッドプラクティス集

—在外公館による日本企業支援—

平成28年度下半期（2／2）

外務省 経済局

目 次

1. ビジネスセミナー等	3
2. 日本企業の広報	10
3. 農林水産物・食品の広報	24
4. 地方自治体との連携	32
5. 意見交換会	35
6. 安全対策	39
7. その他	41

1. ビジネスセミナー等

【ビジネスセミナー】最先端の医療・分析機器やソリューションの発信（ロシア）

開催日：平成29年2月14日

場 所：在ロシア大使館

主催（共催）：大使館 島津製作所

協力：ロシア連邦保険省医薬品品質専門センター（専門家派遣）

在ロシア大使館

【概要】

- 「科学教育セミナー」と題して、ロシア連邦保険省医薬品品質専門センターから専門家を招いて医薬品製造の品質管理に関する最新の行政動向を周知するとともに、その対応に関して島津製作所が提供する最先端の分析技術や品質管理技術の内容、具体的な機器の取り扱い等について発信した。
- ロシア人を中心に、行政、医療現場、大学・研究機関、企業関係者等が参加。
- セミナーの冒頭、経済公使より、島津製作所は創業142年の歴史を誇る日本を代表する企業であり、平成14年には同社従業員の田中耕一さんがノーベル化学賞を受賞するなど、常に先進的で高い品質の技術力については、日本のみならず世界で高い評価があることについて発信し、参加者の日本企業への理解を促した。

【評価・結果】

- ロシア人を中心に、行政、医療現場、大学・研究機関、企業関係者等から想定を超える人数が参加した。
- 出席者からは大変好評であったと聞いており、特にそれぞれの技術に精通した島津製作所のロシア人専門職員からロシア語で具体的な説明が行われたことにより、参加者の理解がより深められたものと考えられる。



【ビジネスセミナー】

ビジネスネットワーキング強化のためのセミナー及び個別企業面談の開催（豪州）

開催日：平成29年2月22日～23日

場 所：ハイアットキャンベラ・PwCキャンベラ他

主 催：在豪州日本国大使館

在オーストラリア大使館

- 欧米や中国企業と競争が激化する豪州インフラ市場では、有力な豪州企業とコンソーシアムを形成してプロジェクトを受注することが不可欠。
- 豪州のインフラ市場に関心を有する日豪企業及び発注者たる豪州政府とのネットワーキング強化を支援するため、第1回（昨年7月開催）に引き続き在豪州大使館が「日豪インフラ関連企業ネットワーキング会合（第2回）」を開催（日豪62企業・政府機関等、103名が参加）。今回は第1回に参加した企業への調査を踏まえ「交通」「再生可能エネルギー」分野に焦点を当てた。
- 連邦政府、州政府（NSW州、VIC州、QLD州、SA州、ACT）、大学教授による講演、「交通」「再生可能エネルギー」をテーマに日豪民間企業が参加したパネルディスカッションを実施し、豪企業・政府からインフラプロジェクト業界の最新の動きを情報提供。また、日豪企業間や日本企業と豪州政府関係者間の個室での個別面談等を実施。
- 2017年秋頃には日豪首脳共同声明に基づく「日豪交通次官級会合」を開催予定であり、民間同士の取組に加え、政府間でも強力に日本企業支援を後押ししていく。

【評価・結果】

- 本会合に参加するため豪州に拠点がない等の日本企業もシンガポール等から訪豪。
- 大使館が55組の個別面談（個室）をアレンジし9割以上の日本企業が参加。
- 同会合に出席した企業や政府関係者からは以下の声が寄せられた。
 - ✓ 企業との個別面談について中立的な大使館が主催のため参加しやすい。
 - ✓ 通常直ぐには面談できない豪企業・政府の幹部と個室で面談ができ大変有意義。
 - ✓ 第1回会合を契機に州交通プロジェクトに豪州企業とコンソーシアムを組んで参画中。
 - ✓ 第2回会合後も州交通プロジェクトについて州幹部と更に打合せを行うこととなった。



マーダック・連邦インフラ省次官の講演



日豪企業が参加したパネルディスカッション



日豪企業や政府関係者間との個室での個別面談

【ビジネスセミナー】 ネットワーキング強化のための経済視察団（ナミビア）

開催日：平成29年2月21～24日

場 所：ウィントフック、ウォルビスベイ

主催（共催）：大使館 JETROヨハネスブルグ事務所、
南ア日本商工会議所

参加企業：丸紅、三菱商事、住友商事、伊藤忠商事、三井物産、阪和興業、東芝、日立

在ナミビア大使館

【概要】

- 豊富な鉱物資源や地理的優位性など、投資、ビジネスの潜在性が高いナミビアにおけるビジネスチャンスの発掘とネットワーキングを目的として、当館と南ア日本商工会議所が協力し、同商工会議所8社及びJETRO関係者計15名からなる経済視察団がナミビアに派遣された。
- SADC諸国へのゲートウェイとなるウォルビスベイおよび首都ウィントフックにおいて、投資環境セミナー、ビジネス交流会、港湾施設視察、関係者との意見交換会が行われた他、参加企業が関心を有するセクターの閣僚等要人（鉱山・エネルギー大臣、産業化・貿易・中小企業開発大臣、公共事業・運輸副大臣、農業・水・森林省次官代理）との面談も実現した。日本の経済視察団の来訪は、当地メディアでも大きく取り上げられた。
- 本経済視察団は、日・ナミビア間の経済活動の活性化を図るべく、当館より南ア日本商工会議所、JETROヨハネスブルグ事務所に働きかけ実現したもの。

【評価・結果】

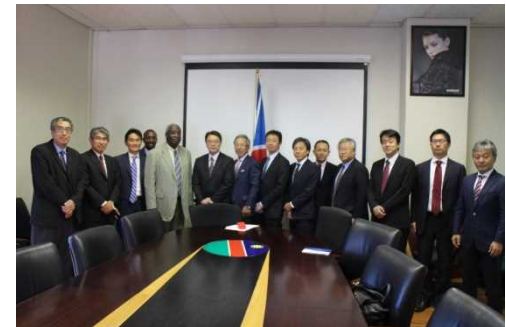
- 南ア日本商工会議所所属企業からは、役員会メンバー8名のうち会頭および副会頭を含む6名が、他参加者9名と共にプログラムに参加し、ビジネスチャンスの発掘や、ナミビア商工会議所やビジネス関係者とのネットワーク構築を積極的に行った。
- ナミビアが推進している国際物流ハブ化事業におけるビジネスポテンシャルを参加者に的確に理解してもらえるよう、当館は国際物流ハブマスタープラン実施支援を行うJICA派遣の日本人コンサルタントをビジネス交流会に参加させ、視察団からの質問等に対応せしめたところ、同マスタープランが持つ当該日本企業にとってのビジネスポテンシャルの高さを再認識することができた、との言葉が寄せられた。今後具体的投資に繋がっていくことが期待される。
- 面談したナミビア側閣僚からは、日本企業に対する大きな期待が表明された。また、我が国からの投資に対する期待感あふれる報道が広くなされた。



ウォルビスベイ港冷凍倉庫視察



産業化・貿易・中小企業開発大臣面談



【ビジネスセミナー】 経済会議「新たな日仏パートナーシップのあり方」(フランス)

開催日： 平成29年3月24日

場 所： サンテティエンヌ市庁舎主催

主催（共催）： 在リヨン領事事務所，サンテティエンヌ市，サンテティエンヌ市シ
テ・デュ・デザイン

協力／参加企業： (DYSHOW, プライメタルテクノロジーフランス(株)，AS-MECA-
BERNARD等・自治体：サンテティエンヌ市，サンジャンボヌフォン市，リヨン・サン
テティエンヌ商工会議所他

在リヨン領事事務所

【概要】

- 日仏企業の新たなパートナーシップというテーマのもと、当地で活躍する日系企業、また新たなビジネスモデルを作り出している日仏企業にスポットライトをあて、経済会議を開催。
- 「日仏文化・経済関係」というテーマで、小林領事事務所長が両国の歴史的関係から現在・未来の関係まで俯瞰し、日本人とフランス人の共通点や差異を踏まえた付き合い方について基調講演を実施。
- 後半のラウンドテーブル・ディスカッションでは、リヨン商工会議所国際部日本担当の北濱氏の司会で、現場の視点に立った日仏産業協力のあり方やその実態、様々な問題点や成功経験等について、日仏企業を代表する異なる業界の4人の経営者による活発な意見交換を行った。

【評価・結果】

- 日仏交流を通じて相互に刺激・補完し合える関係を築くことの大切さに関して意見が一致、そのような相互補完関係こそがこれからの未来を切り開くという見解が述べられた。
- ラウンドテーブル・ディスカッションでは、日仏の仕事の習慣の違いやそれに対するマネジメントの在り方にも話が及び、活発な議論に「またこのような対話の機会を是非設けて頂きたい」との声が上がった。



講演会



テーブルディスカッション



サンテティエンヌ市長，小林所長，パネリスト他

【ビジネスセミナー】

生産性向上に向けた日・シンガポール共同セミナー（シンガポール）

開催日： 平成29年3月15日

場 所： シンガポールBCAアカデミー

主催：国土交通省、BCA（建築建設庁）

協力／参加企業：在シンガポール日本国大使館、LTA（陸上交通庁）、
現地建設・インフラ関連企業、日系建設企業ほか

在シンガポール日本国大使館

【概要】

国土交通省と、シンガポール建築建設庁との共催により、3月15日にシンガポールにおいて「生産性向上に向けた日・シンガポール共同セミナー」を開催し、我が国建設企業の生産性向上に関する技術・取組を紹介。

本セミナーではシンガポール国内やその周辺国におけるインフラ整備案件への我が国建設企業の参画を目指すことを念頭に、我が国建設企業の生産性向上に関する技術・取組の紹介を行い、参加したシンガポール政府機関や現地建設・インフラ関連企業の約120名に対して、我が国建設企業の先進性・優位性をアピールした。



【評価・結果】

国土交通省より生産性向上に向けた施策の紹介を、日系建設企業より先進技術の導入事例、人材活用に関する取組の紹介を行ったところ、当地政府・企業から幅広く関心が示されるとともに、共催者であるBCAからも将来に向けた日本政府・企業との連携に向けた強い期待が示された。また、本セミナーにはLTAの星馬高速鉄道の担当者も出席し日本のトンネル技術に高さに関心を示すなど、日系建設企業による今後のプロジェクト受注に向けて効果的なアピールを行うことができた。

国土交通省と建築建設庁との間で、今後もこうした取組を通じて両国政府・企業との間で生産性向上を含めた建設分野での連携を進めることで一致した。



【ビジネスセミナー】バリ州における投資環境に関する講演会（インドネシア・バリ州）

開催日：平成29年1月20日

場 所：アヨディア・レストラン

主 催：バリ日本人会法人会員管理部

参加者：当館及びバリ商工会議所の協力の下、日本及び現地企業45社が参加

在デンパサール総領事館

【概要】

- バリ日本人会が主催する新年の恒例行事「法人の集い」にバリ商工会議所アリット・ウィラプトラ会頭を招いて、バリ州における投資環境をテーマとするビジネスセミナーを開催。
- 今回のビジネスセミナーでは、アリット会頭による「バリ州における投資のポテンシャルとその機会について」と題する、今のバリ州における投資環境についての講演が行われた。
- セミナーは、日本企業とバリ州とのビジネス関係の強化・発展、そして企業間のコミュニケーションを図るための絶好の機会となった。

【評価・結果】

- 参加者からは、「ビジネスセミナーの開催は非常に有益である」、「今後当地におけるビジネス展開を検討する参考としたい」などの感想が寄せられた。
- ビジネスセミナーの主催者は、今回の企画は法人会員からの好評が得られたため、法人会員管理部の活性化と法人会員の新規獲得に期待が持てるとして、法人会員のニーズの高いテーマで引き続き第2回、第3回開催を企画していきたいとの意欲を示した。
- 当地バリTV放送局が1月23日18:00のニュース番組(Seputar Bali)でビジネスセミナーの様子を放映し、バリ州と日本のビジネス関係を深める第一歩となった旨報じた。



当地バリTV放送局が
1月23日18:00の
ニュース番組(Seputar
Bali)でビジネスセミナー
の様子を放映。

2. 日本企業の広報

【日本企業の広報】 天皇誕生日祝賀レセプションにおける企業ブース展示（米国）

開催日： 平成28年12月13日

場 所： 在米国大使公邸

主 催： 大使館

協力／参加企業・自治体： ANA・JAL・JNTO・JR東日本・JR東海・
米国三菱重工業・ソフトバンクアメリカ・NEC・WOWOW・JAグループ・
西尾製茶・ユニクロ・長崎市等

在米国大使館

【概要】

- 天皇誕生日祝賀レセプションの機会を利用し、当地で影響力を有するハイレベルの招待客に対し、日本及び日本企業の魅力・技術力を積極的に発信するため、日本企業等と協力して実施したもので、18の日本企業・団体が参加し、12のブースを出展。
- 日本企業の技術力（ソフトバンク・ペッパーくん、ユニクロ・ヒートテック、NEC・顔認証システム、JR東日本・新幹線シミュレーター）、当地プロジェクト関連のPR（米国三菱重工業・MRJ、JR東海・マグレブ）、訪日観光、日本文化（食、エンターテインメント）の推進など、多角的に日本企業等の魅力・技術力をPR。
- 式次第で参加企業・団体名を1社ずつ読み上げて紹介し、認知度向上に寄与。

【評価・結果】

- いずれのブースも盛況であり、参加企業・団体からも、ハイレベルの多数の招待客への高いPR効果が得られると好評。
- 体験型ブース（ペッパーくんとのコミュニケーション体験、顔認証体験、新幹線シミュレーター、ヒートテック・ダウンジャケットの無料配布、和牛・日本茶の試食試飲、日本の駄菓子が景品のくじ引き等）を多く設置することにより、より効果的かつ多数の招待客へのアピールに成功。



【日本企業の広報】

環境インフラ分野における日本技術のPR及び政府関係者とのネットワーク支援 (アメリカ)

開催日： 平成29年1月29日

場 所： 在ロサンゼルス総領事公邸

主催（共催）： 在ロサンゼルス総領事館、環境シンクタンク「ヴェルデエクスチェンジ」

参加企業： トヨタ、日産、JR東日本、近畿車両、住友電工、JFEエンジニアリング、NEC、
スタンレー電気、明電舎、ラメックス、村田製作所

在ロサンゼルス総領事館

【概要】

- 当地環境シンクタンク主催の国際環境会議の開催にあたり、主催者側と協力し、会議の前夜祭（ジャパンナイト）として、カリフォルニア州の環境政策に影響力を持つ政府・企業関係者らを公邸に招き、公邸レセプション及び特別夕食会を開催した。
- 州・地方政府関係者、ビジネス関係者ら約180名が参加した公邸レセプションでは、日本企業の協力を得て、公邸内に模型展示やモニター設置、パンフレットの配布等を通じ、日本の環境インフラ技術を体感型でPRした。
- 加えて、カリフォルニア州の環境インフラ市場を開拓中の日本企業（再生可能エネルギー関連（蓄電池、スマートグリッド）、交通インフラ（高速鉄道、都市鉄道）、水インフラ、水素関連技術等）にとって、ビジネス上、重要なキーパーソンとなる政府関係者等とのネットワーキングの支援を行った。

【評価・結果】

- 日本企業の参加者からは、公邸レセプションでの技術紹介及び政府関係者とのネットワーキングの支援について大変有用であるとの評価を受けた。
- 特に、民間企業が直接面会することが難しいハイクラスな政府関係者や、ビジネスを進める上でのキーパーソンに対する技術紹介の機会創出やネットワーキング支援について、参加した日本企業関係者から大変有り難い支援の評価を受けた。
- 加えて、政府関係者をはじめとする来賓からも、日本の様々な環境インフラ技術を実感し日本企業へのアウトリーチが可能な点についても好評であった。



【在外公館文化事業】 ウガンダ日本祭における企業ブース（ウガンダ）

開催日： 平成28年12月3日

場 所： 首都カンパラ・YUJO（日本食レストラン）

主催（共催）： 大使館及びウガンダ日本文化協会の共催

協力／参加企業・自治体： 3WMウガンダ， 銭高組， オリエンタルコンサルタンツ， Bereesera， CourieMate-WBPF Consultants LTD， 愛知電機

在ウガンダ大使館

【概要】

- 当国で活動する日系企業をイベントに招待し企業ブースを設け，各企業の活動を紹介する機会を提供した。特に，ナイル架橋建設計画といったウガンダにおける主要経協案件を手掛ける企業が，事業の模型を設置する等して広報を行ったことで，我が国企業に対する親近感の醸成に寄与した。
- 自動車産業は当国国民にとって最も親しみのある我が国の産業であるところ，車の販売を手掛ける日系企業の参加は，来場者の関心を集めた。また，手芸品を手掛ける邦人による出展等は，我が国の産業は工業製品のみではなく多様性のあるものと理解させる上で有益であった。



【評価・結果】

- 我が国に対する理解が浅く，中国と日本を混同する者も多く存在する当国において，親日層の裾野を拡大する上で非常に有益な機会となった。
- 日系企業の活動が分かりやすく紹介されていたとの多くの好意的な声が寄せられた。特に，来場者の97%が本イベントを好意的に評価した。



【日本企業の広報】 日本企業展示会の開催（パキスタン）

実施日： 平成28年12月6日

場所： パールコンチネンタルホテル

主催（共催）：在カラチ日本国総領事館、JETROパキスタン事務所

【概要】

- パキスタンに進出している日系企業の活動及び商品やサービスの紹介のため、過去数年開催している「ジャパン・ビジネス・エキシビジョン2016」を開催した。当地では集客数確保のためにも天皇誕生日レセプションと平行する形で展示会開催を行っている。
- 在カラチ総領事館は当地JETRO事務所との連携の下、当日に向けての準備・調整及び当日の運営・案内等を行った。

【評価・結果】

- 日本関連企業17社が企業展示を行ったが、天皇誕生日レセプションと同時開催したこともあり、政府、ビジネス界関係者を多く含む来場者が同展示をじっくりと見学することができ高い広報効果があった。
- JETROからも、同展示と本件レセプションと協調したことで多くの集客効果があり、また出展企業との活発な意見交換の場となり、展示会自体は例年にも増し大盛況であった旨報告があった。

在カラチ総領事館



【日本企業の広報】

アルゼンチントヨタ社 アルゼンチン生産100万台記念式典（アルゼンチン）

開催日： 平成28年11月29日

場 所： アルゼンチントヨタ社サラテ工場

主催（共催）：アルゼンチントヨタ社

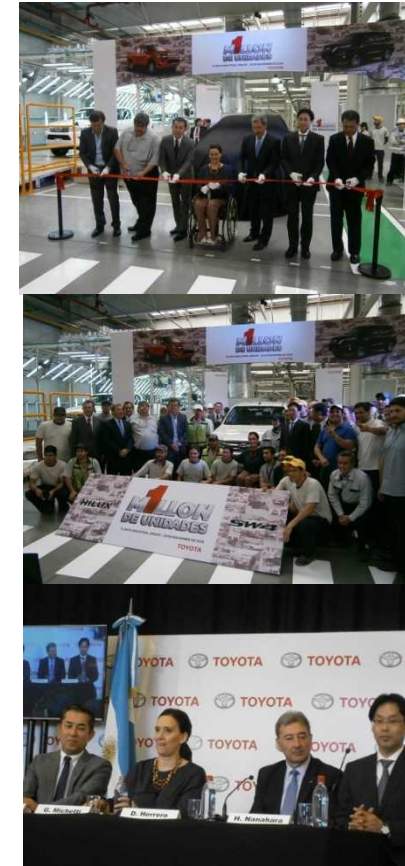
在アルゼンチン大使館

【概要】

- ブエノス・アイレス州サラテ市のアルゼンチントヨタ社サラテ工場にてアルゼンチン生産100万台記念式典が開催され、本使も出席した他、ミケティ副大統領、エチェゴジェン工業生産副大臣等の亜政府関係者が出席。ミケティ副大統領は、同社のアルゼンチンにおける100万台生産に祝福の言葉を述べ、日本企業を賞賛した。同式典には、七原弘晃トヨタ自動車常務役員、ダニエル・エレロ・アルゼンチントヨタ社長、高橋アルゼンチントヨタ副社長ら自動車関係者やサプライヤー等の関連企業関係者等160名以上が出席した。

【評価・結果】

- アルゼンチントヨタ社のアルゼンチン生産100万台記念式典について工業生産省からのプレスリリース発出の他、現地主要新聞に大きく報道され、日本企業のプレゼンスを示した。
- 工業生産省プレスリリースに「ミケティ副大統領はアルゼンチン生産100万台の成果はアルゼンチンの経済・産業の成長に大きく寄与。産業育成・工業化は政府が重要視する政策であり、アルゼンチンの成長と雇用の確保のため、トヨタのチームを高く評価したいと述べた」ことが掲載された。
- 現地ラ・ナシオン紙等に、アルゼンチン生産100万台記念式典が開催され、ミケティ副大統領等が出席し祝辞を述べたことや、エレロ・アルゼンチントヨタ社長が高額な車両税の改善を求めつつ、ブラジル危機は底打ちし緩やかに回復するだろうと今後の自動車市場の見通しを示したこと等が報道された。



「ミケティ副大統領は、アルゼンチン生産100万台の成果はアルゼンチンの経済・産業の成長に大きく寄与。」(11月30日付け工業生産省プレスリリース)
「アルゼンチントヨタ社はアルゼンチン生産100万台を達成」(11月30日付けラ・ナシオン紙)

【日本企業の広報】

日ペルー ICT 協力強化月間の取組（ペルー）

開催日： 平成29年2月24日～3月17日

在ペルー大使館

場 所： ペルーリマ市・トルヒーヨ市（大使公邸，国立研究所，市内ホテル）

主催（共催）：大使館，ペルー運輸通信省，総務省

協力／参加企業：NEC，NTTデータ，古河電気工業，

NHKアイテック，タナビキ

【概要】

- 2016年11月の安倍総理によるペルー公式訪問時において，クチンスキー大統領との間で，近年の両国間のICT分野の協力が評価され更なる連携強化が確認されるとともに，総務省及びペルー運輸通信省において，両国共同プロジェクトを持続的に推進していく趣旨の協力覚書が署名された。
- この背景の下，ICT分野において日ペルー双方の関心を精査したところ，①ICTを活用した物流効率化，②ICTを活用した防災情報伝達技術の導入，③光ファイバー技術，④地デジ，⑤デジタル・ハブといった分野に双方関心があることが判明した。
- 在ペルー大使館では，このニーズに応えるべくペルー運輸通信省及び我が方総務省と連携し，2月下旬からその1か月間を「日ペルーICT協力強化月間」をして，毎週，上記各関心事項を深掘りしたセミナーを開催した。

【評価・結果】

- 1か月間で計6回セミナーを開催し，各議題に強い関心を有するペルー政府・民間企業関係者が述べ400名の参加を得られ，大いに日本企業の有するICT技術をPRすることができた。
- ペルー政府からは，全てのイベントについてペルー政府からは局長以上の役職が参加しており，ペルー政府関係者ハイレベルへのPRも実現した。
- 日ペルー双方から各議題に強い関心を有している参加者が集ったことから，その後も当事者間でビジネスの発展等へ向けた協議が行われているとの報告もあり，将来に繋がる有意義な取組となった。



【日本企業の広報】 天皇誕生日祝賀レセプションにおける日本P R活動（中国）

開催日： 平成28年12月2日

場 所： 瀋陽市内ホテル

主催（共催）：在瀋陽日本国総領事館

協力／参加企業：キヤノン（中国）有限公司 東北支社等

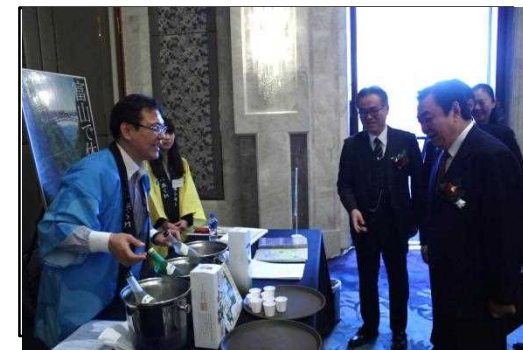
在瀋陽総領事館

【概要】

- 当館主催の天皇誕生日祝賀レセプションにおいて、石塚総領事は、ヘイ（左辺：丙・右辺：こざと偏）志剛遼寧省人民政府副省長をはじめとする地元政府要人を日系企業及び日本の自治体の展示ブースに案内し、当地で事業展開する日系企業の商品・技術・サービスの魅力を積極的にアピールした。
- 本レセプションでは、日系企業、日本の地方自治体事務所及び関係団体29社・団体がブース出展し、レクサスの展示をはじめとする日本の製品やサービス、地方観光、酒（日本酒、日本産ワイン）、特産品等の紹介を通じて、日本の魅力をアピールした。また、会場内のスクリーンでは、当地日系企業8社の社会貢献活動を紹介するスライドを上映した。特に乾杯に当たっては、国産の勝沼ワインを使用し、その旨スピーチで強調をした。
- 当日は、ヘイ（左辺：丙・右辺：こざと偏）志剛遼寧省人民政府副省長、メイ在瀋陽米国総領事等領事団を始め、東北三省（遼寧省、吉林省、黒龍江省）の政府関係者、日中両国の企業関係者等、過去最多となる計295名が出席した。

【評価・結果】

- 遼寧省人民政府副省長等当地政府要人多くが出席したほか、出席者数も過去最多に上った。また、日系企業等ブース出展者数も昨年を上回ったことから、多くの出席者に広く日本企業の事業及びCSR活動のPRや商品紹介を行うことができた。
- 勝沼ワイン等本件日本PR活動に参加した企業から、当館に対して、「本活動への参加により、販路を拡大できた」と謝意が述べられるなど、本活動は単なる広報のみならず、当地進出日系企業等に対して有意義な商談機会を提供できている。



【日本企業支援】ジュネーブモーターショー参加企業等支援レセプション（スイス）

開催日：平成29年3月20日

場所：在ジュネーブ国際機関日本政府代表部大使公邸

主催（共催）：在ジュネーブ領事事務所

参加企業：日系自動車企業7社、及び他分野日系企業4社

在ジュネーブ国際機関日本政府代表部

【概要】

- 第87回ジュネーブ・モーターショー（3月9日～19日）の機会を捉え、同モーターショーに参加した日系企業の支援を主目的とする本使主催レセプションを開催。
- 前日まで上記モーターショーに出展していた日系企業（ホンダ、マツダ、三菱、日産、スバル、スズキ、トヨタの7社）の展示車をはじめとする18台、うち13台は試乗可能として、公邸敷地内に配置した。
- 自動車企業の他、ANA、サンスター、Yuki Corporation及びJTIの4社が、各社パンフレットの配布や商品の展示、試食を実施した。
- 日本茶輸出促進協議会任命の日本茶大使による日本産の玄米茶及び煎茶の呈茶を実施した。
- また、レセプション開催中、英語動画放映を通じ、招待客へ福島復興の現状や日本の観光情報について紹介した。

【評価・結果】

- 我が国産業の中でも世界的競争力を有する自動車産業の環境先進性や製造能力の高さをアピールできた。招待客は自動車の試乗や展示へ積極的に赴き、各社は熱心に招待客の質問や試乗に対応した。
- 航空・健康・食品分野等の日系企業による展示・試食ブースも、各社の工夫された広報により多くの招待客で賑わっており、関心の高さが伺えた。
- 日本茶大使による呈茶は、淹れたてのお茶の豊かな香りを招待客に楽しんでもらい、中にはお茶のおかわりをする人々も見られた。
- 各企業からは販売やブランドの浸透など今後につながる有意義なプロモーションができたことと謝意表明があり、今後も同様の機会提供・支援活動を継続して欲しいとして、引き続き当代表部との連携強化について期待が表明された。



【日本企業の広報】

日本ブランドの新型プレミアムカー紹介イベントの実施（セルビア）

開催日： 平成28年10月14日

場 所： 在セルビア大使館

主催（共催）：インフィニティ（日産自動車）輸入販売業者、欧州
日産自動車会社（インフィニティ・ヨーロッパ）

【概要】

- 日本ブランドの新型プレミアムカーの販売が開始されたことを受けて、その紹介イベントを在セルビア日本国大使館のホール及び庭において実施。
- 新型車両を含む日本ブランドのプレミアムカーを5台展示するとともに、日本らしさを演出するため、イベントスタッフの着物をイメージさせる衣装の着用、寿司を含めた軽食を提供することにより、日本らしさを演出。

【評価・結果】

- ゲストのほとんどすべては、初の来館者であり、イベント開始予定時刻より早く来館して、展示車両のほか、大使館ホールの文化啓発品（人形、模型、調度品）等を楽しんでいた。
- 来場者に日本ブランドのプレミアムカーをよく知ってもらう、また、来場者との関係を構築するきっかけとなった。
- 当地一般紙、自動車専門誌等に、本イベントの様子が報じられた。

在セルビア大使館



「プロモーション」U AMBASADJI JAPANA

U AMBASADJI Japana na Novem Bеоград, "Infiniti" i његов званичан упутишник за Србију "Grandnavigator" представили су својим новим модел у погледу тог премијум брэнда - кроссовер QX60. Такође је "Infiniti" и у Србији свечано прогласио модел QX60.

Упутишник представља се први објект те димензије међународног саопштава, амбасадор Јапана у Србији Јуџи Такакура.

"Infiniti" је први партнер коме је Јапана амбасادا упутила свој простор за организацију "напојне дегустације" - рекао је, између осталог, амбасадор Јапана - "Партнерство Јапана и српских компанија за

најсавременијег значаја, а посебно место, својим ексклузивношћу, захтевајући упутишник "Infiniti".

Ово је у Јапани Јапана поздрављајући је и директор за пољепљење пројекте на међама Јапана "Infiniti Europe".

Веома савремено што има је партнер у Србији референца компанија "Grandnavigator".

Наша сарадња не гасне у погледу је све гласношћу је упутишник сав да ће у будућности бити реализована - рекао је Бруне.

Ово је у Јапани "Infiniti" и својим моделу поставља је својим димензија - рекао је, између осталог, амбасадор Јапана - "Партнерство Јапана и српских компанија за



званично почео продају својих аутомобила, до данас тај брэнда је привремено одлучио чекати, јуристик. Од првог контакта са брэндом, упутишник у продају својих аутомобила с погледом, првог теста

војне до историје, одржа након преузимања возила и услуга сервис - сав је подређено томе да се купца одржи власник у правим ситуација повлашћених - рекао је Стефановић.

【日本企業の広報】

東地中海国際旅行博 (EMITT2017) への日本ブース出展 (トルコ・イスタンブール)

開催日： 平成29年1月26～29日
場 所： TUYAP国際展示場
主 催： EMITT (東地中海国際旅行博) 事務局
協力／参加企業： JETROイスタンブール事務所、
日系旅行会社3社 (H. I. S. , クリザンテン社, エルグヴァン社)

在イスタンブール総領事館

【概要】

- 東地中海国際旅行博の機会を活用し、JNTOロンドン事務所と連携して日本ブースを出展。同ブースには、ビジットジャパン・デスクの他、JETRO (産業観光)、日系旅行会社3社及び総領事館デスクを設置し、日本と日本への旅行に関するPR及び問い合わせへの対応を行った。
- 当地在住の和太鼓奏者による演奏 (計16回)、日本茶・抹茶クッキーの試飲・試食 (計1,600人分)、ひな人形の展示、折り紙の実演と配布等を実施し、日本文化の多面的な紹介も併せて行った。

【評価・結果】

- 日本ブースは期間中盛況の内に幕を閉じた。世界80か国から約5,000事業者が出展し、4日間の会期中に46,670人が来場した中、日本ブースはEMITT事務局から「The Most Sympathetic Stand of EMITT2017」を受賞するなど、極めて高い評価を得た。
- 初日のオープニング式典の後、トルコ観光大臣やイスタンブール市長が日本ブースに長時間立ち寄るなど、ハイレベルの来訪者が大きな関心を示し、その模様がニュース番組で大々的に報道されたほか、1月27日から28日にかけて、同市内の全公共交通機関の車内モニター等に当方ブースの模様も収録したEMITT紹介動画が繰り返し上映され、日本企業の広報支援において大きな効果があった。



【日系企業・地方自治体 との連携】

2016年日シンガポール外交関係樹立50周年 SJ50まつり（シンガポール）

開催日：平成28年10月29日-30日

場所：シンガポール、オーチャードロード、ニースシティシビックプラザ

主催：SJ50ステアリングコミッティ

（在シンガポール日本大使館、シンガポール日本人会、日本商工会議所シンガポール、ジェトロシンガポール、JNTOシンガポール、クレアシンガポール（J.CLAIR）、JSTシンガポール、星日文化協会

※SJ50タスクフォース（JTB）と協力して開催

在シンガポール大使館

【概要】

- 本事業は2016年の日本シンガポール外交関係樹立50周年を記念し、さらなる両国の友好促進、相互理解を目的として開催された「お祭りイベント」。「今の日本」「ジャパンプランド」をアピールする。総来場者数は約11万人。オーチャードロード閉鎖による両国民パレード&阿波おどり（徳島と東京高円寺より招へい）を実施（参加者約2万人）。記念セレモニーには主賓としてジョセフィン・テオ上級国務相（首相府担当兼外務担当兼運輸担当）が出席。
- 特別協賛はMUFG（ゴールドスポンサー）、日本商工会議所シンガポール（シルバースポンサー）、NHKWORLD（ブロンズスポンサー）。出展・協賛社数は68団体・企業（日系企業や地方自治体等）。出演者数は、36団体による39ステージ（2日間合計）。
- メディアスポンサーのMediaCorpによる事前・事後のテレビコマーシャル、中国語ニュース放送の「チャンネル8」でのイベント紹介、事前プレスコンファレンス開催（@ION）、地下鉄サマセツ駅や高島屋1階での大広告などを通じ、SJ50まつりを宣伝。

【評価・結果】

- 2日間で11万人という大変多くの来場者があり、シンガポールにおける日本関連団体・日系企業などが一丸となって盛り上げた、日本・シンガポール友好史に残る日星交流事業となった。
- 当地新聞のストレーツタイムズ紙のみならず、NHKや共同通信など数多くのプレスがSJ50まつりを取り上げ、シンガポール国内外に発信。



【日本企業の広報】 伝統工芸品の新たな魅力発信 滋賀県彦根市 井上仏壇によるウォッチワインダー展（シンガポール）

開催日： 平成28年11月17日（木）－19日（土）
場 所： ジャパン・クリエイティブ・センター（JCC）
共 催： 在シンガポール日本国大使館、井上仏壇、IPPIN

【概要】

- 本事業は、日本の伝統工芸品の新たな魅力をシンガポールの人々に発信することを目的としたイベント。日シンガポール外交関係樹立50周年事業の1つとして開催。
- 滋賀県彦根市にある仏壇屋の井上仏壇（経済産業省助成あり）による、仏壇細工の手法を活用したウォッチワインダー（時計のねじ巻き器）作品の展示、蒔絵のワークショップ及びデモンストレーションを実施。展示には、100名、蒔絵のワークショップ/デモンストレーションには26名参加。蒔絵の伝統工芸職人による実演も披露された。

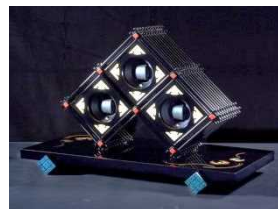
【評価・結果】

- 仏壇制作には漆塗り・蒔絵など多くの伝統工芸の手法が使われており、その手法をウォッチワインダーという形で活用する新たな取り組みを、シンガポールの人々に知って頂く大変良い機会となった。当地の中華系新聞「聯合晩報」にも取りあげられ、当地での関心の高さが伺えしれる。
- 参加者からは「伝統工芸を使ったウォッチワインダーは見たことがない」などの感想が寄せられた。また蒔絵のワークショップには実際に蒔絵体験ができると多くの応募があった。

在シンガポール大使館



「聯合晩報」
11月19日（土）



【日本企業の広報】

当地スポーツ講演を活用した 日系企業広報支援（シンガポール）

在シンガポール大使館

開催日： 平成29年3月24日（金）
場 所： ジャパン・クリエイティブ・センター（JCC）
共 催： JCC、シンガポール柔道協会
協 力： 久光製薬

【概要】

- 本事業は、シンガポールの人々に日本とシンガポールの柔道について知って頂く講演会を活用し、関連企業（当地日系企業の久光製薬）の広報を促進する企画。また広報と共に、久光製薬とシンガポール柔道連盟との新たな関係の構築も目指す。
- 講演では、シンガポール柔道連盟と協力し、シンガポールにおける日本柔道の黎明期や、日本政府のシンガポール柔道への支援を含む、これまでの取組や歴史、柔道を学ぶ楽しさ、今後のシンガポール柔道の将来等について講演を行うと共に、柔道の型などのデモンストレーションを実施。イベントの最後に、柔道で怪我をしたときにはサロンパスのような湿布を活用できるという名目でサロンパスの無料配布を行った。またサロンパスの横断幕等も活用した。講演会には30名参加。

【評価・結果】

- 講演参加者に当地日系企業の久光製薬について知って頂く機会となった。またシンガポール柔道連盟はこれまで企業スポンサーなどを有しておらず、一方で久光製薬も過去に当地のスポーツ行事のスポンサーもしていたことから、スポーツを通じた協力関係として、両者をつなぐことができた。今後、シンガポール柔道連盟による当地での柔道の試合において、久光製薬が協力していく方向となった。



3. 農林水産物・食品の広報

【農林水産物・食品の広報】 和食文化紹介番組（マラウイ）

開催日：平成28年6月16～17日番組収録，平成29年1末～2月放送

場 所：在マラウイ大使公邸料理場

共 催：マラウイ民放Zodiak TVとの番組共同制作事業

参加者：Zodiak TV，在マラウイ大使館館員

在マラウイ大使館

【概要】

- 和食レストランが存在せず和食を試す機会がない当国において，マラウイ国民一般に向けた和食文化紹介及び和食料理デモンストレーションを盛り込んだテレビ番組を当地民放Zodiak TVと共同制作し放送することで，和食及び日本文化に対する関心を高め，また，野中公邸料理人がマラウイの新鮮な食材を使って和食を調理することにより，マラウイ国民に和食に対して親しみを持ってもらい，創造的に料理するよう関心を持ってもらうために同事業を行った。
- 内容：30分間の番組で，内容の編成は以下のとおり。
（1）和食文化について：新鮮で多様な食材，季節や地域の食材を使用，健康的で栄養バランスのとれた食事（2）本日のメニュー：寿司と天ぷらについて，（3）ローカル・マーケットでの買い物：野中公邸料理人が地元の魚市場でマラウイ湖から捕れた新鮮なチャンボ，野菜市場で旬の野菜を買う，（4）調理デモンストレーション：野中公邸料理人が日マラウイ創作料理であるチャンボ寿司，輸入した魚を使ったにぎり寿司の作り方を実演，輸入エビやマラウイのローカル野菜を使って天ぷらを揚げる，（5）試食：Zodiak TV関係者が出来上がった寿司及び天ぷらを試食し，感想を述べる。

【評価・結果】

- 本番組制作を通しZodiak TV関係者に日本文化及び和食文化に高い関心を持ってもらうことができ，また，同TV局と非常に良好な関係を構築することができた。番組収録時期にマラウイ政府関係者，外交団及びマラウイ企業関係者（農業・食糧産業中心）を公邸に招いて和食文化紹介レセプションも行ったことで，当地で和食文化を効果的に広報することができた。
- 今後，本番組に対する視聴者からの反響をフォローアップし，今後もこのような番組共同制作事業に取り組みたい。



【農林水産物・食品の広報】 和食文化紹介レセプション（マラウイ）

開催日： 平成28年6月9日
場 所： 在マラウイ大使公邸
主 催： 在マラウイ大使館
出席者： 農業・灌漑・水開発大臣，教育・科学技術大臣，国防副大臣，
他政府関係者，外交団，民間企業関係者，JICA関係者等

在マラウイ大使館

【概要】

- 和食レストランが存在せず和食を試す機会がない当国において，主にマラウイ政府関係者，外交団及びマラウイ企業関係者（農業・食糧産業中心）に対し，和食文化紹介を行い，和食及び日本文化に対する関心を高め，また，公邸料理人が当地で手に入る食材を使って和食を調理することにより，マラウイ人に和食に親しみを持ってもらい，創造的に料理し，新しい味にも挑戦してもらうことを目的とした。
- 西岡前大使から和食文化について説明し，和食が多様で新鮮な食材及び季節や地域の食材を使用すること，健康的で栄養バランスのとれた食事であること及び2013年ユネスコ無形文化遺産に登録されたことを紹介した。
- 野中公邸料理人が調理した和食を一品ずつ紹介した。特に，マラウイ湖で捕れたチャンボの押し寿司や照り焼き，ウシパの唐揚げ，ローカル野菜を使った天ぷらや煮物等についてはマラウイの食材を使ったことを説明。また，野中料理人がマラウイ産牛肉と輸入牛肉のローストビーフを切って振る舞った。さらに，握り寿司，ワサビや天ぷらの歴史や作り方の説明も行った。

【評価・結果】

- 和食文化を紹介するだけでなく，マラウイの食材を使って和食を調理したことが出席者から大変評価された。
- 当国ではBuy Malawi Strategyといったマラウイ産の食材や製品の消費促進運動も行われており，マラウイの豊富で多様な食材にも焦点を当てたことが良かった。食糧不足に直面する中でも，食事に工夫を凝らし，将来的には食材の輸出も考えてもらえるきっかけにもなった。



【農林水産物・ 食品の広報】

日本食材セミナー・食産業関係者交流レセプション（ロシア）

在ロシア大使館

開催日： 平成29年2月3日

場 所： 在ロシア大使館

主 催： JTBコーポレートセールス、品目別輸出促進団体、日本センター（モスクワ）

【イベント概要】

新たな日本食材の取引関係の構築を目的とし、ロシア最大級の食品見本市「プロドエキスポ2017」が2月6日から当地にて開催される時期を捉え、日本食材の活用に関心を持つロシア食関係事業者等を大使館に招待し、同見本市に出展する団体、企業その他日本側参加者から日本食材（日本茶、青果物、日本産牛肉）の魅力、活用方法を紹介するセミナー・展示を実施。これに加え、当該食材や地域から参加した各主体（宮城県、鳥取県、新潟県）の特産品等を楽しみつつ日露関係者の交流・情報交換を図るためのレセプションを開催した。

また、欧州を拠点に活動する日本酒ソムリエを招いた日本酒セミナーを同時開催することにより、食材とともに日本酒の魅力が総合的に伝わるよう工夫した。



【参加者の反応・イベントの効果】

●ターゲット層であるロシアの食関係事業者から相当数の参加が得られた。各食材の専門家から直接その魅力・活用方法等の説明が聞けたこと、様々な食材が一堂に集まることにより、そのバラエティーの豊かさが感じられたことなどから、多くの参加者が日本食材の取扱いに関心を示していた。

●多くの日本側関係者が参加したことによってそれぞれの事業内容や関心事項が共有されるなど、日本側関係者間の新たなネットワークづくりの機会ともなった。また、日本酒セミナーと各地域からの地酒の試飲提供との組み合わせなど、展示内容としても相乗効果が感じられた。

●日本酒セミナーに関しては、欧州で本格的な日本酒講座を展開する講師であるとともに、女性講師、英語での講義などの要素も加わり、当地飲料ディストリビューターらが日本酒をより身近に感じ、新たな関心を持つ機会となった。本格的に講座を受講したいとの声も聞かれた。



【農林水産物・食品の広報】 ワシントンDCにおける日本食普及功労賞の授与（米国）

開催日： 平成29年2月7日

場 所： メス・ホール

主 催： 農林水産省

協 力： 和歌山県、JTB、当地日系食品関連企業・レストラン

在米大使館

【概要】

- 「ワシントンDCにおける日本食の普及促進」に貢献した者の功績をたたえる功労賞の授与式を開催。
- 当館小島裕章参事官の他、当地のレストラン協会会長、フードライター、昨年の受賞料理人等を構成員とする、日本食普及推進協議会が、審査の結果、当地においてラーメンブームを牽引し、日本食の新たなトレンドを作り出しているとして、ダイカヤ（Daikaya）のオーナー・歌川大輔氏を表彰。
- このほか、ジェトロより、当地で日本産食材を積極的に使用している計7店舗の飲食店及び小売店に対して、「日本食材サポーター店」の認定証を授与。

【評価・結果】

- 歌川氏は、式典後のセミナーで、米国における日本食普及の歴史、日本産食品の品質の高さ等を紹介し、来場した当地業界関係者の日本食に対する理解を深めた。
- また、同氏は、米国人プロデューサーとともに東京、九州及び北海道を訪問し、日本各地の食文化を紹介するTV番組を製作。同番組は、米国公共放送ネットワークで全米各地で繰り返し放映され、日本観光の魅力の発信にも多大な貢献。
- 来場者した食業界関係者からは、同氏の功績をたたえとともに、日本産食材への興味が湧いたとの声があがった。



（報道ぶり）

On TAP MAGAGINE, BISNOW, Hungry Travelist 等多数の現地ニュースメディアにイベント概要が掲載。

【農林水産物・食品の広報】 十勝地方の物産及び産業の紹介（ネパール）

開催日： 平成29年4月5日

場 所： ラディソンホテル

主催（共催）：ネパール産業省

協力／参加企業・自治体：（株）柳月、（株）十勝野フロマージュ等

在ネパール大使館

【概要】

- ポウデル元副総理（ネ・日友好議連会長）の招聘を受けて、十勝ビジネスリサーチ代表団（団長：小森唯永帯広市市議会議員）が、ネパールにおける市場調査のため、当地を訪問した。
- ネパール産業省主催のビジネスレセプションにおいて、同代表団は柳月のお菓子や十勝野フロマージュをはじめとする十勝地方の物産及び産業を紹介した。
- 同レセプションでは十勝地方の物産の試食が行われ、日本人及びネパール人実業家間において活発な交流がなされた。
- 同レセプションには、ジョシ産業大臣、コイララ産業省次官、キシヨル・ネパール商工会議所連合会（FNCCI）副会長、マラ・ネパール商工会議所（NCC）副会長などネパールの政府要人や実業家が多数出席した。

【評価・結果】

- 日本側出席者からは「日本のお菓子に対するネパール人の味覚を確認できる場となった」、ネパール側出席者からは「日本のお菓子やチーズは大変おいしい」などの感想が寄せられた。
- 現地ヒマラヤンタイムズ紙に「日本のチームがネパールにおける投資の可能性を探る」と報道された（報道ぶり右参照）。



Japanese team
explores investment
potential in country
Stakeholders stress on need to bring
technical know-how of Japan to Nepal

The Himalayan Times, Page 10, April 2017

【農林水産物・食品の広報】

イズミル日本文化週間2017における和食の紹介 (トルコ・イズミル)

開催日： 平成29年2月26日
場 所： イズミル市（イズミル・サナット）
主 催： 在イスタンブール総領事館，（共催）イズミル市，日本イズミル文化友好協会（JIKAD）
協 賛： ニッポンハム・グループ，J T I（Japan Tobacco International）

在イスタンブール総領事館

【概要】

- トルコ第3の都市であるイズミル市において，2014年から毎年，当館とイズミル市，日本イズミル文化友好協会等が共催で実施している事業「イズミル日本文化週間」において，日本映画紹介，日本語弁論大会の開催，日本食の紹介等を通じて，日本に対する理解・共感の拡大を図った。
- 日本食の紹介プログラム「和食の世界へようこそ！」では，満席（300人）の聴衆を前に，常田公邸料理人がパワポ資料で寿司の歴史等についてプレゼンを行った後，寿司に加え，地元に進出するニッポンハム・グループの協賛で，同社の加工鶏肉を用いた焼き鶏も紹介した。

【評価・結果】

- 常田料理人によるプレゼン「寿司の歴史と現在」は来場者から好評を博し，その後の寿司の実演と併せ，普段和食と接することの少ないイズミル市民の和食への理解と共感を深めることにつながった。また，イズミルに進出するニッポンハム・グループの鶏肉を用いたことで，当地における日本企業の存在感をアピールすることができた。
- 「和食の世界へようこそ！」に焦点を当てた写真入りの記事が当地最大の発行部数のヒュリエット紙で報道され，高い広報効果があった。（右中段写真は同紙記事に掲載されたもの）



鹿児島茶プロモーションインサンフランシスコ（米国）

実施日： 平成29年2月23日

在サンフランシスコ日本国総領事館

共 催： 在サンフランシスコ日本国総領事館
鹿児島茶輸出研究所株式会社

【概要】

- 鹿児島茶輸出研究所株式会社より当地サンフランシスコにて農林水産省補助事業の一環として鹿児島茶商談会の開催を行いたい旨の要望がありこれに応じたもの。
- 市内日本食レストランの一角を貸し切り、実物の各種鹿児島茶を紹介し、同社から参加者に対してプレゼンテーションが行われた。その後、参加者との間で活発な意見交換が行われた。

【在外公館の対応】

- 平素から当館が有する繋がりを最大限に活かし、当館から鹿児島茶広報のためバイヤーのほか、アジアンコミュニティ団体、当地日本食レストランや源吉兆庵をはじめとした食関係者に幅広く声がけし、多数の出席を得た。
- 当地で有名な日本食レストランシェフと協力し、鹿児島茶にあう御膳料理の企画や当地日本和菓子店の源吉兆庵と協力し、鹿児島茶と和菓子のペアリングを企画するなど、バイヤーにとって魅力的なイベントとなるよう努めた。
- 会場となった当地日系レストランや関係者の紹介など販路拡大に向けた人脈作りの場を提供するよう努めた。なお、当館からも冒頭挨拶を行った。

【結果・評価】

- 当地バイヤーからのサンプル依頼や有機玉露の引き合い、バイヤーの鹿児島訪問が決まるなど、商談に向けてのステップへの橋渡しとなった。
- 関係者との人脈形成の中で、本年11月に当地で開催されるサンフランシスコ・ティー・フェスティバルへの参加要請があったほか、鹿児島茶のティバッグ新商品のモニター店としてイベント開催場所の日本食レストラン及びそのチェーン店が協力することになるなど、販路拡大に貢献した。



4. 地方自治体との連携

【地方自治体との連携】 三重県の魅力発信イベント（シンガポール）

開催日： 平成28年12月5日（月）
場 所： ジャパン・クリエイティブ・センター（JCC）
主催者： 在シンガポール日本国大使館、三重県、BR@IN（企業）

【概要】

- 本事業は、2016年の伊勢志摩サミットにより、三重県が注目されていることを踏まえ、三重県の魅力を総合的に発信することを目的としたイベント。日シンガポール外交関係樹立50周年事業の1つとして開催。
- 伊賀の忍者体験、三重県のお酒やお菓子、伊勢エビのペパークラフトのワークショップ、三重県に関する展示などを通じて、総合的に三重県を発信する企画。44名が参加。

【評価・結果】

- 伊勢エビ・忍者など、シンガポールの人々に三重県の新たな魅力を発信できる大変良い機会となった。
- 参加者からは「三重県に訪れてみたくなった」、「忍者の起源について知ることができた」などの感想が寄せられた。

在シンガポール大使館



【地方自治体との連携】 当地デザイナーと石川県伝統工芸の コラボレーション作品展示会（シンガポール）

開催日： ①特別イベント：平成29年1月11日
②展示：平成29年1月11日～21日
場 所： ジャパン・クリエイティブ・センター（JCC）
共 催： 在シンガポール日本国大使館、石川県

【概要】

- 本事業は、シンガポールのデザイナー等と石川県の伝統工芸品の職人たちのコラボレーションによって生まれた作品を展示することによって、石川県の新たな魅力をシンガポールの人々に発信することを目的としたイベント。
- ①加賀友禅と世界遺産ボタニックガーデン・トーガーデンのコラボレーションによるランの花びらの染料を使用した加賀友禅ストール、②輪島塗の藤八屋とテマセク・ポリテクニクのデザイン科の学生らのコラボレーションによる輪島塗アクセサリー、③山中塗の岡田や漆器と当地セレクトショップ「スーパーママ」とのコラボレーションによる山中塗スマートフォンカバーとボールペンを展示。
- 特別イベントでは、石川県の伝統工芸体験ワークショップや、当地の文化関係者など55名出席のもとレセプションを開催し、コラボレーション作品の紹介、石川県の日本酒紹介、石川県伝統工芸職人による実演披露が行われた。

【評価・結果】

- 当地のデザイナー等と石川県の伝統工芸のコラボレーション作品という新たな切り口の展示を行うことによって、日シンガポール間の友好をアピールしつつ、シンガポールの人々に石川県の新たな魅力を発信する大変良い機会となった。
- 参加者からは「石川県に訪れてみたくなった」、「シンガポールのデザイナーと石川県の伝統工芸とのコラボレーションという発想は大変面白く、シンガポールと日本の他の自治体とのコラボレーションも見てみたい」などの感想が寄せられた。

在シンガポール大使館



5. 意見交換会

【意見交換会】 ジレ西ケープ州首相と日本企業の面談（ケープタウン）

開催日： 平成29年3月7日及び4月7日
場 所： 西ケープ州首相室
主催（共催）： 在ケープタウン領事事務所

在ケープタウン領事事務所

【概要】

- 平成28年2月の経団連ミッション当地来訪以後、機会あるごとに日本企業の当地投資傾向（昨年3社が投資）を対外発信。
- 各種会合でジレ西ケープ州首相にも直接、日本企業の関心をアピール。
- ジレ州首相は同年中に最も関係が進展した国は日本である、として訪日を決定。
- 訪日に先立つ3月7日に当地に投資した日本企業とジレ州首相と会談を設定。その結果、一部の企業はジレ州首相と企業幹部との東京での面談を設定。
- ジレ州首相が訪日を開始する3月12日には、当事務所主催ジャパンデー（5000名以上参加）を開催。来賓西ケープ州幹部がジレ州首相の訪日を発信。
- 同首相帰国後、当地日本企業関係者との面談（4月7日）を再設定。

【評価・結果】

- 西ケープ州政府／投資庁と当地日本企業との間でビジネス環境等につき協議する実務レベルでの定期的対話の枠組みを立ち上げることができた。



【意見交換会】

アルゼンチン外務省主催朝食会（アルゼンチン）

開催日： 平成28年11月21日

場 所： サンマルティン宮殿

主 催： アルゼンチン外務省

【概要】

- 11月21日、サン・マルティン宮殿「大食堂の間」において、安倍総理大臣の訪問に合わせて訪亜した日本政府及び日本企業関係者と亜政府大臣等との意見交換を目的とした朝食会が亜外務省主催で開催され、日本側約40名、亜側約16名が出席した。
- 亜政府からは、外務大臣、エネルギー・鉱業大臣、財務金融大臣、工業生産大臣、運輸大臣の5大臣が出席し、各分野での亜への投資等を呼びかけるなど、日本企業の亜への投資等に対する亜政府の高い期待が表れた会合となった。

【評価・結果】

- 日本企業各社からは、出席した亜閣僚に対して関心分野の表明やアルゼンチンの経済改革の進捗、法的安定性の面の改善への理解が示され、法的枠組みの整備の重要性、投資協定の交渉への期待が示された。
- 出席企業からは、亜閣僚に直接、関心分野の表明やビジネス環境整備への期待を伝える機会があり有意義であった等のコメントがあった。

在アルゼンチン大使館



マルコーラ亜外務大臣によるスピーチ

「アルゼンチン・日本：マルコーラ外務大臣
他主要大臣が日本企業団を歓迎」（11月21日付け亜外務省プレスリリース）
その他、当地主要経済紙「クロニスタ」、国営テラム通信が朝食会の様子を伝えた。

【意見交換会】

日本・アルゼンチン経済フォーラム（アルゼンチン）

在アルゼンチン大使館

実施日：平成28年11月21日

主催・共催：JETRO、亜内閣府、亜投資庁、亜外務省

関連企業：日亜両国企業関係者等

【概要】

- 11月21日、ヒルトン・ブエノスアイレス ブエンアイレの間において、安倍総理大臣のアルゼンチン訪問の機会を捉え、日本・アルゼンチン経済フォーラムを開催。同フォーラムには、訪亜した日本企業関係者、亜政府及び企業関係者等約500名が参加した。
- 同フォーラムでは、安倍総理、ミケティ副大統領による挨拶、両国要人の立ち会いの下、日・亜関係のビジネスに係る3件の覚書交換式が行われ、当地における日本のプレゼンスを示すものとなった。また、社会インフラ整備への貢献、産業基盤発展への貢献、ニューフロンティア開拓への貢献の3つのセッションが行われ、ハイレベルな日亜の政府・企業関係者による講演が行われた。

【評価・結果】

- 参加した日本企業からは、両国要人の立ち会いの下、日・亜関係のビジネスに係る3件の覚書交換式が行われ、今後の投資に係るハイレベルな日亜の政府・企業関係者による講演が行われ、有意義なフォーラムに開催に謝意が示された。
- 日本・アルゼンチン経済フォーラムについては、現地主要紙であるラ・ナシオン紙（11月21日付け）、クロニスタ紙（11月19日、22日付け）、日本の産経新聞（11月19日付け）、共同通信（11月22日付け）等多くのプレスに掲載された。



安倍総理による御挨拶



ミケティ副大統領による御挨拶

6. 安全対策

【安全対策】 大統領選挙後の治安悪化に伴う治安状況情報提供（セネガル、ガンビア）

実施日：平成28年12月－平成29年1月
主催：日本大使館

在セネガル大使館

【背景】

- ガンビアは22年にも及ぶ独裁的な政権が営まれてきたが、客年12月の大統領選挙において、大方の予想に反して野党連合を率いる候補が勝利した。その後、政権移譲を拒否した前大統領に対し、ECOWAS首脳らによる度重なる調停が行われるも不調に終わり、ECOWAS軍がガンビア国内に展開される事態となった。これに伴い、ガンビア及び同国と隣接するセネガル国境付近において、軍事展開、一時避難民の発生等により不測の事態が生じる可能性が高まった。

【在外公館の対応】

- 在セネガル大使館は、セネガルにいる日本企業に対して領事メール等を利用して、関連情報を提供し続けた。また、当地訪問予定のある企業に対しては、情勢の説明するとともに、不測事態に備えてたびレジ登録等による連絡先の確保に努めた。

【結果・評価】

- 同情勢の変化は日本のメディア等ではあまり扱われていなかったために、当館による情報提供による注意喚起が有効だったと思料。
- 結果として、大事に至らないうちに事態が収束したが、当館からの度重なる報提供に対して企業から謝意が述べられた。

7. その他

【その他】日本企業視察ミッション団による葫蘆島市訪問（中国）

開催日：平成28年11月10～11日

場 所：葫蘆島市

主催：在瀋陽総領事館

参加企業：京都銀行、商船三井ロジスティクス、住友商事、日本航空、丸紅大連、みずほ銀行、三井住友銀行、三井物産、山口銀行

在瀋陽総領事館

【概要】

- 石塚総領事は、ジェトロ大連事務所と協力し、東北地域に進出する日本企業9社で構成する「視察ミッション団」を葫蘆島市に派遣した。
- 滞在期間中には、王力威市長との会見、対外貿易経済合作局との意見交換、経済開発区・同市進出日系企業の視察等を行い、葫蘆島市の貿易・投資環境に関して理解を深めるとともに、日中双方の経済面での交流や協力について意見交換を行った。

【評価・結果】

- 今回のミッションには大手企業を中心に9社が参加しており、日本企業の葫蘆島市のビジネス環境に対する高い関心が感じられた。
- 参加企業の多くは遼寧省内で事業展開している。今回のミッション団派遣を通じて、日本語が堪能で自ら親日家と述べる数少ない遼寧省政府幹部である、王市長を紹介できたことは、企業にとって貴重な人脈構築の機会であったと考える。
- 多くの参加企業から、「葫蘆島市はコストが高騰した沿海部の大都市の代替都市として、水産加工業等の事業展開が検討できる」との意見が出るなど、双方の協力強化に向けて活発な意見交換を行うことができた。



【その他】

スーパーラグビーナイト(シンガポール)

在シンガポール大使館

開催日： 平成29年3月1日(水)
場 所： シンガポール日本人会
主催者： 在シンガポール日本国大使館、スポーツハブ
協 力： アルビレックス新潟シンガポール

【概要】

- 本事業は、2016年から当地で開催の「スーパーラグビー」※におけるラグビーチーム『サンウルブズ(オフィシャルスポンサー:株式会社ヒトコミュニケーションズ)』の応援・当地日系社会(当地日系企業含む)・日星スポーツ関係者の交流等を目的に開催したものの。
- 篠田大使、マヌー スポーツハブCEO、テオピン シンガポールラグビー協会会長、サンウルブズ渡瀬CEOの他、日本人会会長、サンウルブズの監督や選手など200名以上が参加。また3月4日、3月24日のサンウルブズの試合には大使他幹部が出席。アルビレックス新潟シンガポールによるチアリーディングのパフォーマンスも披露された。

【評価・結果】

- 当地開催のスーパーラグビーを契機に、当地日系社会(当地日系企業含む)・日星スポーツ関係者(特にラグビー)を一堂に集め、新たなネットワークを形成できたことは意義深い。
- 参加者(シンガポール人)からは、シンガポールにおけるスポーツはこれから育てていく分野であり、スポーツ分野でこういった日シンガポールのネットワーキングが行われることは大変良いことであり、今後もスポーツ分野に取り組んでもらいたい旨コメントがあった。

※1. スーパーラグビーはニュージーランド・オーストラリア・南アフリカ・アルゼンチン・日本の5か国、計18のクラブチームで行うラグビーユニオンの国際リーグ戦。シンガポールでは2016年から2020年までの5年間、毎年、日本の試合の一部、ホームゲームとしてシンガポールでも3試合開催する。2019年日本開催のラグビーワールドカップに向けての日本代表選手の育成・強化も担っている。スーパーラグビーには日本代表選手の多くが参加する日本のチームである「サンウルブズ」が参加。

